



# ☆Cha Cha Cha☆

研究通信 No. 21  
令和5年10月3日(火)  
文責：園川

## 《2年部共同実践から学ぶ》

～人権教育・特別支援教育推進の立場から～

研究部外でも「チャチャチャ」OKということで失礼しています。私がペンをとらせていただきたいと思ったのは担当上、授業実践を人権教育・特別支援教育の視点でどうみるかということでした。夏休みの個人の授業実践記録作成から発展し、学年での共同実践に挑んでいる本校ですがその成果が、3月の人権レポート作成においても学年学校での共通実践が生み出されればいいなあと考えています。

2年部では、教師の個性を大切にしつつも、統一した実践構想を人権教育上の観点から、しっかり練って挑戦されていました。きっとこの実践で個人の成長も際だってくると思いましたが、そういった観点からそれぞれの学年部で、少しずつ3学期の実践記録作成に向けて取り組んでいただけたらと思えました。(次回は担任外の先生方もレポート作成をお願いします。)

「小学校学習指導要領総則編：抜粋 第3章第5の2」では、

- ・特別支援学級の児童との交流及び共同学習は、日常の様々な場面での活動が可能であり、双方の児童の教育的ニーズを十分に把握し、校内の協力体制を構築し効果的な活動を設定することなどが大切である。
- ・障害のある児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること

とあります。これを拒否する職員は「人権侵害」にあたるまで言われていました。

(8月7日：熊本県教育職員免許法認定講習)

2年生は自閉情緒学級6名がおり、3名ずつ2つのクラスに分かれて生活科の授業を受けています。

2年生くすのき3組は、人とのつながる力や気持ちを読み取る力にハンデを抱えており、言われたことは忠実なほどやってくれますが、自分たちや自分で考えることが苦手で不安感をもつ子どもたちが多います。お二人の先生方はむしろこのような特別な配慮の必要な児童を「宝」ととらえ、子どもたちに安心感を与えるために、できるところで共同した授業実践を進められておられました。

そんな中、今回の生活科「おもちゃランドへ行こう」～よりよいおもちゃを作るためにどうしたらいいのか～という学年共同実践は、子どもたちにとっても大変有意義な授業となりました。

- ① 自分でやってみようと思ったおもちゃを作ってみる。
- ② 「なかなかうまくできないなあ。先生に怒られるかなあ。」と思うが、周りの友だちも似たような気持ちであることに気づき、安心する。
- ③ 「うまくいかないことは悪いことではない」「ではどうしたらいいのか」を考える際に、教師がヒントをさり気なくやってみせる。(「ゆさぶり」の段階) ←おどろき小道具の登場
- ④ 再度、自分で考えてみる。

という実践構想をお二人で練られていたのは見事でした。くすのき3組の子どもたちも活動に熱中していました。

(裏面有り)



教師が工夫したおもちゃを紹介する。